

大阪開港のあゆみ



天保山風景図(大阪歴史博物館蔵)



ヲロシヤ図船之略図(大阪歴史博物館蔵)



築港大棧橋(大阪歴史博物館蔵)

- 貞享元 一六八四年
- 天保二 一八三一年
- 嘉永七 一八五四年九月
- 安政五 一八五八年六月
- 慶応四 一八六八年七月二五日
- 明治七 一八七四年
- 明治十八 一八八五年
- 明治二十二 一八八九年四月
- 明治二十七 一八九四年
- 明治二十九 一八九六年三月
- 明治三十 一八九七年十月
- 明治三十二 一八九九年七月
- 明治三十六 一九〇三年七月
- 明治三十六 一九〇三年九月二日
- 大正十一 一九二二年
- 昭和四 一九二九年
- 昭和十四 一九三九年
- 平成二十九 二〇一七年

幕府(河村瑞賢)が九条島を割って安治川を開削する
 安治川河口の土砂の浚渫がはじまり、天保山がつくられる(翌年完成)
 ロシア船ディアナ号が天保山沖にあらわれる
 日米通商修好条約締結
大阪港開港
 大阪府庁が江之子島に移転
 淀川で大洪水が起る。淀川改修と築港建設事業が喫緊の課題に
 大阪市制制定
 大阪市による築港計画の策定
 川口に築港工事事務所を開設
 初代所長は西村捨三
 天保山で築港起工式挙行
 川口居留地廃止
 築港大棧橋(現在の中央突堤)など完成
 大阪市初の市電、築港棧橋(大阪港)―花園橋間(九条新道交差点)開通
 天保山棧橋が完成
 工事着手から三二二年にわたる築港事業が完了(大阪港第一次修築工事終了)
 取扱貨物量が日本最大に。名実ともに、神戸、横浜と肩を並べる港に
大阪港開港一五〇周年

難波津から渡辺津へ

「難波津」の時代から、港として栄えてきた大坂。瀬戸内海の東端に位置し、奈良・京都につながる海上交通と河川交通の結節点であった。古代難波津は国家的な港として栄えた。中世には渡辺津があり、「熊野詣」の出発点でもあった。

「天下の台所」

江戸時代、大坂は西日本の中心都市として発展した。一七世紀末に幕府の命令により河村瑞賢が九条島を割って安治川を開削し、木津川口と並んで安治川口にも港ができた。近畿地方の高い農業生産力や都市の発展を背景に、大坂は全国的な物資の集散地、つまり「天下の台所」としての地位を築いた。大坂の港は淀川の河口にあり、土砂が堆積し船舶の運航に支障きたすことがしばしばであった。そこで安治川口の土砂を浚え積み上げてきたのが天保山であった。

開港…海外に門戸を開く

欧米列強が開国を迫る幕末、維新の動乱のなか、慶応四(一八六八)年七月二五日(太陽暦で九月二日)に大阪は「開港」した。開港とは、外国船の入港を認め、貿易を始めるということである。開港により、安治川口には外国人居留地が建設され、運上所(のちの税関)が設置された。外国人居留地は、商業だけでなく社会や教育・文化にも影響を与えた。

築港の建設

大阪の港は和船に対応したものであったので、明治初年から近代的な港の建設が、淀川の改修工事と並んで大きな課題の一つになっていた。計画はなかなか進展しなかったが、明治一八(一八八五)年の淀川大洪水で甚大な被害があり、ここからその実現に向けて大きく動き出す。オランダ人技師デ・レーケが築港計画を立案し、西村捨三に代表される政財界の努力や市民の後押しもあって、ついに明治三〇年(一八九七)〇月に築港建設工事は起工された。多額の工費は、市税・国から補助金のほか、その大半は公債によって賄われた。明治三六年八月に大棧橋・南北両突堤・築港大道路などが完成し、これに合わせて大阪初の市電も同年九月に築港―花園橋(九条新道)間で開通した。

アジア向け貿易港

築港ができた大阪港の貿易は、折しも産業革命の波に乗って急速に拡大し、神戸港に肩を並べるまでになった。築港建設工事は、その後も断続的に昭和初期まで続いた。大阪港は、繊維や機械を中心に、昭和初期には神戸港・横浜港を抑え全国一の貨物取扱高を誇り、「大大阪」の名にふさわしいアジア向け貿易港として発展した。

大阪歴史博物館 特集展示

『大阪町めぐり 安治川と天保山』★

江戸時代に人工的につくられた安治川と天保山。この安治川の開削と天保山を中心に江戸時代から明治期にかけての大阪の港とその周辺の移り変わりを館蔵資料で紹介します。

- 会場** 大阪歴史博物館 8階 特集展示室
- 会期** 平成29年6月21日(水)～8月28日(月)
火曜日休館 ※ただし、8月15日(火)は開館
- 開館時間** 午前9時30分～午後5時
※ただし、6月23・30日、7月7日を除く金曜日は午後8時まで(入館は閉館の30分前まで)

- 観覧料** 大人600円(540円)・高校生・大学生400円(360円)
※常設展示観覧券でご覧いただけます。
※()内は、「エンジョイエコカード提示」による割引料金
- 主催** 大阪歴史博物館 TEL.06-6946-5728 FAX.06-6946-2662
- アクセス** 地下鉄谷町線・中央線「谷町四丁目駅」2号・9号出口



浪花百景 天保山(大阪歴史博物館蔵)